

2024年3月期 決算説明会

2024年5月14日

新日本空調株式会社



社長の廣島でございます。

本日は、当社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

1.	2024年3月期 連結決算実績	P. 3
2.	2025年3月期 連結業績見通し	P. 10
3.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正	P. 14
4.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況	P. 17



本日の説明会では、2024年3月期の事業環境と連結決算実績、2025年3月期の連結業績見通し、2023年度からスタートした、中期経営計画SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正、中期経営計画の進捗状況について、ご説明します。

- 世界経済は、物価高や金融引き締めに加え、ウクライナ情勢の長期化や中東での紛争による地政学的リスクの高まりや中国経済の低迷などによって成長のペースは鈍化した
- 日本経済は、エネルギー価格の高騰や円安による物価上昇など、景気の下振れが懸念されたものの社会活動の正常化、インバウンド需要の回復、雇用・所得環境の改善が見られ、製造業の設備投資は堅調に推移している
- 建設業では、半導体産業の設備投資や首都圏を中心とした再開発などの不動産投資は堅調を維持している
- 資機材・労務費・運搬費の上昇傾向、技術者・技能労働者不足は継続している
- AIやIoTを活用した技術革新と、カーボンゼロへの対応や、デジタルトランスフォーメーション、働き方改革による生産性向上への取組みを加速させている
- 気候変動などの地球環境問題への配慮、人権の尊重、従業員の健康と労働環境への配慮や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引、自然災害等への危機管理など、サステナビリティを巡る課題への対応は、リスクの減少のみならず収益機会にもつながる重要な経営課題となっている

世界経済は、物価高、金融引き締め、ウクライナ情勢の長期化などにより、世界経済の成長ペースは鈍化。日本経済は、エネルギー価格高騰や円安の影響があるものの、製造業の設備投資は、堅調に推移しています。建設業では、半導体産業や首都圏再開発の不動産投資は、堅調を維持。

一方、資機材・労務費・運搬費の上昇と技術者・技能労働者不足は、継続しています。また、AIやIoTを活用した技術革新や、カーボンゼロへの対応、生産性向上への取組みを加速させています。そして、気候変動などの地球環境問題、人権尊重、労働環境改善への取組みなど、サステナビリティへの対応は、経営課題となっています。

1.	2024年3月期 連結決算実績	P. 3
2.	2025年3月期 連結業績見通し	P. 10
3.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正	P. 14
4.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況	P. 17



それでは、2024年3月期 連結決算実績についてご説明します。

1. 2024年3月期 連結決算実績 【連結業績サマリー】

新日本空調株式会社

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	前期 増減	前期 増減比
受注高	116,197	130,869	141,121	10,251	7.8%
完工高	106,718	112,234	127,978	15,743	14.0%
完工総利益	14,546	15,676	18,699	3,023	19.3%
完工総利益率(%)	13.6%	14.0%	14.6%	0.6pt	—
営業利益	6,881	7,124	9,235	2,110	29.6%
営業利益率(%)	6.4%	6.3%	7.2%	0.9pt	—
経常利益	7,366	7,914	9,725	1,810	22.9%
経常利益率(%)	6.9%	7.1%	7.6%	0.5pt	—
当期純利益※	5,403	5,597	7,168	1,571	28.1%
当期純利益率(%)	5.1%	5.0%	5.6%	0.6pt	—
繰越高	77,883	96,519	109,662	13,143	13.6%

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益

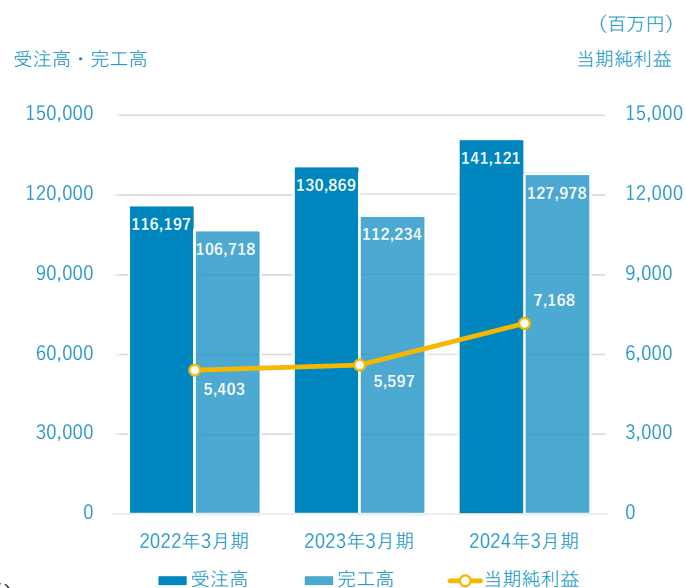
【受注高】国内・海外ともに大型産業案件が寄与し、過去最高を達成。

【完工高】新築では、特に産業案件が増加。関係会社では、国内・海外ともに順調に進捗し、過去最高を達成。

【利益】完工総利益は、受注採算性の向上や施工効率化等が寄与し、前期比で増益となり、過去最高を達成。

人的資本、R&D、デジタル変革への積極投資を主因とする販費増もあるなか、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前期比で大幅な増益となり、過去最高を達成。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.



最初に、連結業績サマリーについてご説明します。受注高は、前期比7.8%増の、1,411億2,100万円となりました。当期は、国内・海外ともに、新築分野での大型産業案件を中心に、受注が好調に推移しました。完工高は、前期比14%増の、1,279億7,800万円となりました。新築分野での産業案件が増加、また、国内・海外ともに関係会社も順調に進捗し、連結で大幅な増収となりました。利益面では、人的資本やデジタル変革、成長事業へ向けた投資を拡大したものの、受注採算性の向上や原価低減活動の浸透、業務効率の向上などにより、

完工総利益：前期比19.3%増の186億9,900百万円、

完工総利益率：前期比0.6ポイント増の14.6%となりました。

営業利益：前期比29.6%増の92億3,500百万円、

経常利益：前期比22.9%増の97億2,500百万円、

当期純利益は、前期比28.1%増の71億6,800百万円となり、当期純利益は、5期連続で最高益を更新しました。

繰越高は、前期比13.6%増の1,096億6,200万円となり、3期連続で前期比増となりました。受注高、完工高、完工総利益、営業利益、経常利益、当期純利益において、過去最高を達成しました。

1. 2024年3月期 連結決算実績 【連結貸借対照表（要約）】

新日本空調株式会社

								(百万円)
資産の部	2023年 3月期	2024年 3月期	増減	負債・純資産の部	2023年 3月期	2024年 3月期	増減	
現金預金	25,004	13,629	△11,375	支払手形・工事未払金等	31,646	25,691	△5,955	
受手・完工未収入金等	54,278	67,527	13,248	短期借入金	3,433	9,816	6,382	
その他	2,247	3,140	892	その他	13,538	12,718	△819	
流動資産 計	81,530	84,297	2,766	流動負債 計	48,618	48,226	△391	
有形固定資産	2,628	2,253	△374	固定負債 計	2,315	3,530	1,214	
無形固定資産	1,062	1,802	739	負債 合計	50,933	51,756	822	
投資その他の資産	23,924	28,998	5,073	株主資本	48,751	52,477	3,726	
(投資有価証券)	(21,989)	(27,233)	(5,244)	その他	9,461	13,117	3,655	
固定資産 計	27,615	33,054	5,438	純資産 合計	58,212	65,594	7,382	
資産 合計	109,146	117,351	8,205	負債・純資産 合計	109,146	117,351	8,205	

【資 産】現金預金減少（△11,375）、完成工事高の増加による受取手形・完成工事未収入金等増加（+13,248）、保有株式の時価上昇による投資有価証券増加（+5,244）など。

【負 債】取引先への支払サイト短縮による支払手形・工事未払金等減少（△5,955）、運転資金の調達に伴う短期借入金増加（+6,382）など。

【純資産】当期純利益（+7,168）、配当金支払（△2,087）、自己株式の取得等（△1,400）、その他有価証券評価差額金（+3,321）など。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.

5

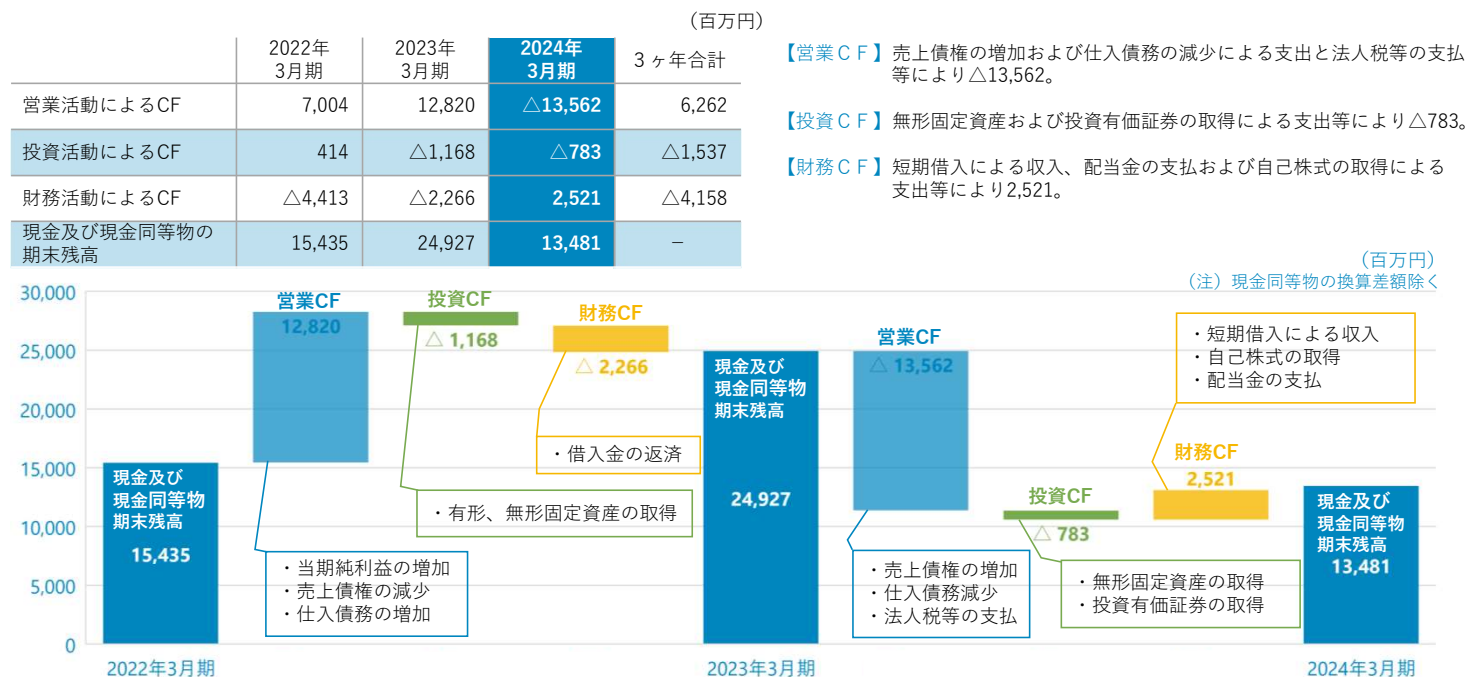
次に、連結貸借対照表について、概要をご説明します。

資産合計は、前期比82億 500万円増の1,173億5,100万円となりました。その主な内訳は、現金預金が113億7,500万円の減少、完成工事の増加による、受取手形・完成工事未収入金等が132億4,800万円の増加、ソフトウェアなどの無形固定資産が、7億3,900万円の増加、投資有価証券が、52億4,400万円の増加などによるものです。

負債合計は、前期比8億2,200万円増加の517億5,600万円となりました。その主な内訳は、取引先への支払サイト短縮により、支払手形・工事未払金等が、59億5,500万円の減少、短期借入金が、63億8,200万円の増加、などによるものです。

純資産合計は、前期比73億8,200万円増加の655億9,400万円となりました。その主な内訳は、当期純利益で71億6,800万円の増加、配当金の支払いで20億8,700万円の減少、自己株式の取得などで14億円の減少、その他において、有価証券 評価差額金などで、33億2,100万円の増加となります。

1. 2024年3月期 連結決算実績 【連結キャッシュ・フロー】



続いて、連結キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加および、仕入債務の減少による支出と、法人税などの支払いなどにより、マイナス135億6,200万円となりました。

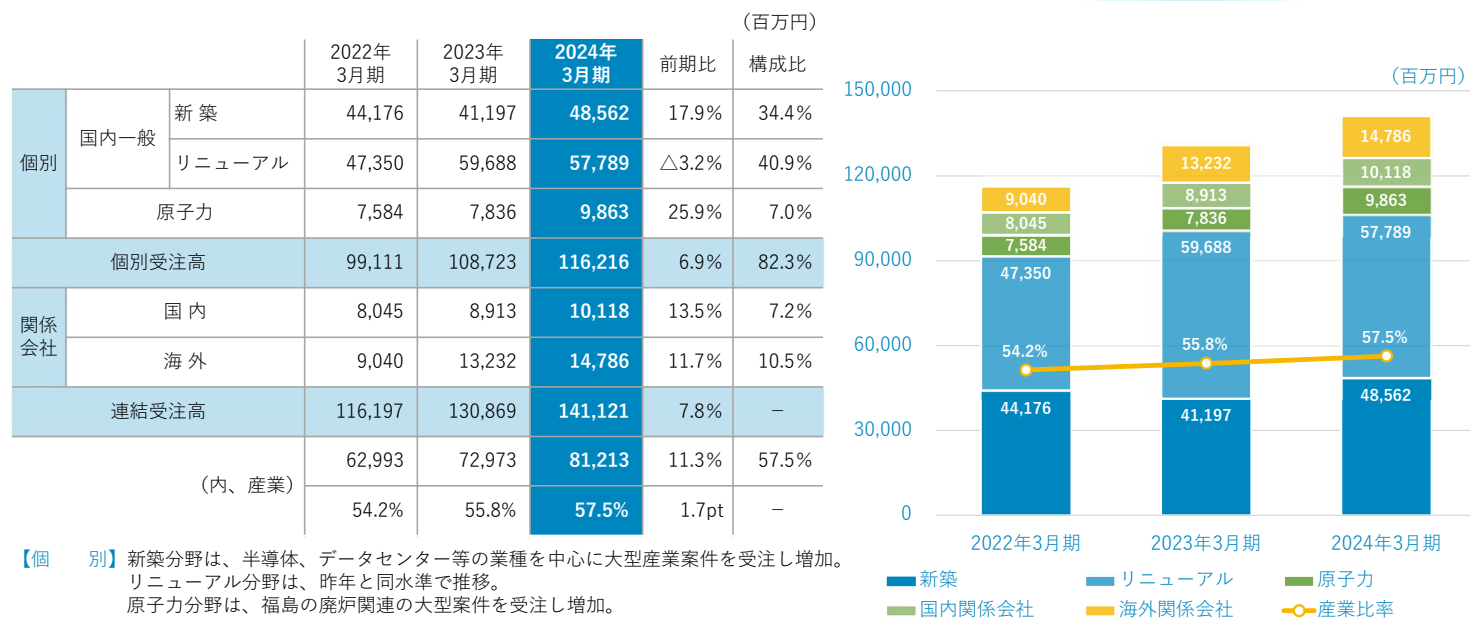
投資活動によるキャッシュ・フローは、ソフトウェアなどの無形固定資産や、投資有価証券などの取得により、マイナス7億8,300万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入による収入、配当金の支払いおよび、自己株式の取得になどにより、25億2,100万円となりました。

これにより、現金および現金同等物の期末残高は、期首残高249億2,700万円から114億4,600万円減少の、134億8,100万円となりました。

1. 2024年3月期 連結決算実績 【分野別 受注高・完工高・繰越高】

新日本空調株式会社



【個別】新築分野は、半導体、データセンター等の業種を中心に大型産業案件を受注し増加。リニューアル分野は、昨年と同水準で推移。原子力分野は、福島の大規模廃炉関連の大型案件を受注し増加。2期連続で1,000億円を超える受注高。

【関係会社】国内・海外ともに産業案件を中心に増加。特に海外では、大型データセンターを受注し増加。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.

7

続いて、分野別の受注高、完工高、繰越高についてご説明します。

受注高における、国内一般の新築分野は、半導体、データセンターなどの業種を中心とした、大型産業案件を受注し、前期比17.9%増の485億6,200万円となりました。

リニューアル分野は、昨年と同水準で推移し、前期比3.2%減の577億8,900万円、原子力分野は、福島の大規模廃炉関連の大型案件を受注し、前期比25.9%増の98億6,300万円となりました。

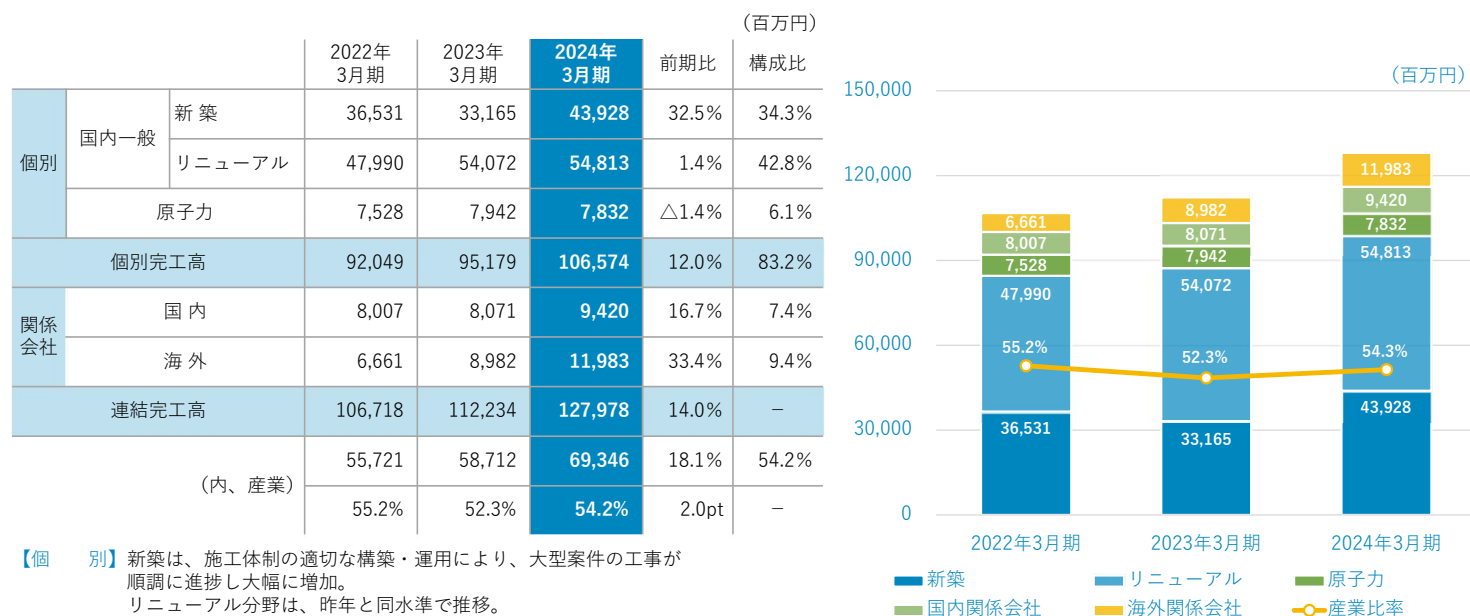
個別の受注高では、前期比6.9%増の1,162億1,600万円となり、2期連続で1,000億円をこえる、受注高となりました。

国内関係会社は、前期比13.5%増の101億1,800万円、海外関係会社は、前期比11.7%増の147億8,600万円、国内・海外関係会社ともに、産業案件を中心に増加となりました。

連結の受注高は、前期比7.8%増の1,411億2,100万円となり、その内、産業分野は、前期比11.3%増の812億1,300万円となりました。

1. 2024年3月期 連結決算実績 【分野別 受注高・完工高・繰越高】

新日本空調株式会社



【個別】新築は、施工体制の適切な構築・運用により、大型案件の工事が順調に進捗し大幅に増加。
リニューアル分野は、昨年と同水準で推移。
原子力は、福島廃炉関連及び新規規制基準対応工事等が順調に進捗。

【関係会社】国内・海外ともに産業案件が順調に進捗し増加。
海外は、工場やデータセンターの大型工事が進捗したことで増加。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.

8

完工高についてご説明します。

国内一般の新築分野は、施工体制の適切な構築・運用により、大型案件の工事が順調に進捗し、前期比32.5%増の439億2,800万円となりました。

リニューアル分野は、昨年と同水準で進捗し、前期比1.4%増の548億1,300万円、原子力分野は、福島廃炉関連および新規規制基準/対応工事などが順調に進捗し、前期比1.4%減の78億3,200万円となりました。

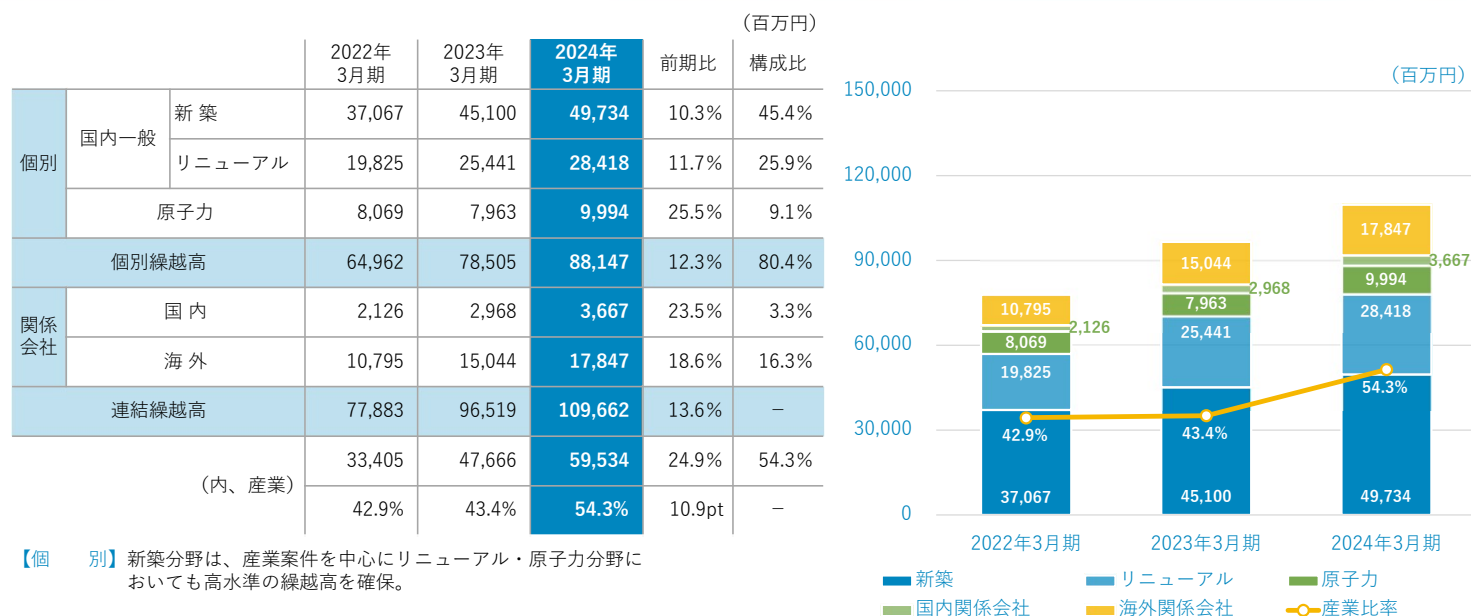
個別の完工高では、前期比12%増の1,065億7,400万円、国内関係会社は、前期比16.7%増の94億2,000万円、海外関係会社は、前期比33.4%増の119億8,300万円となりました。

国内・海外関係会社ともに、産業案件を中心に増加となり、海外においては、工場やデータセンターの大型工事が進捗したことで、増加となりました。

連結の完工高は、前期比14%増の1,279億7,800万円となり、その内、産業分野は、前期比18.1%増の693億4,600万円となりました。

1. 2024年3月期 連結決算実績 【分野別 受注高・完工高・繰越高】

新日本空調株式会社



連結の繰越高について、ご説明します。全ての分野において、前期を上回り、前期比13.6%増の1,096億6,200万円となりました。

個別では、新築分野において産業案件を中心にリニューアル分野、原子力分野においても、高水準の繰越高を確保しており、前期比12.3%増の881億4,700万円となりました。

また、国内・海外関係会社ともに、豊富な工事量を確保しており、連結での繰越高は1,000億円を超え、3期連続で前期比増となりました。

1.	2024年3月期 連結決算実績	P. 3
2.	2025年3月期 連結業績見通し	P. 10
3.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正	P. 14
4.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況	P. 17



続きまして、2025年3月期の連結業績見通しについて、ご説明します。

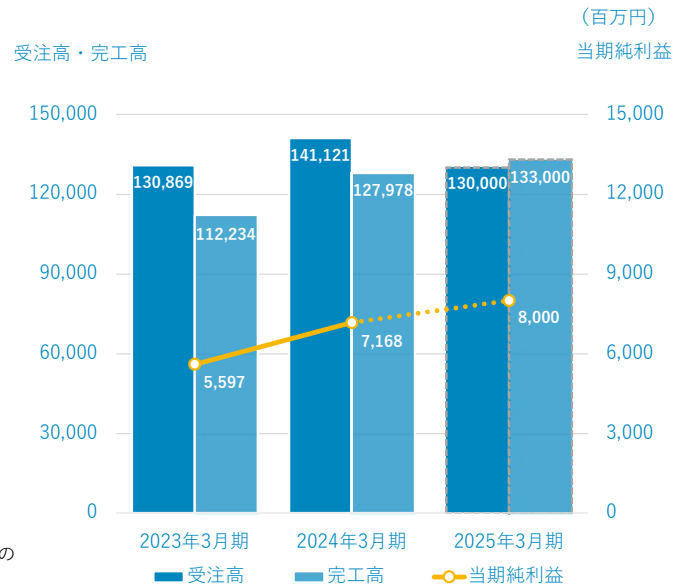
2. 2025年3月期 連結業績見通し 【連結業績見通し】

新日本空調株式会社

	2023年3月期 実績		2024年3月期 実績		(百万円) 2025年3月期 見通し	
受注高	130,869	—	141,121	—	130,000	—
完工高	112,234	—	127,978	—	133,000	—
完工総利益	15,676	14.0%	18,699	14.6%	19,400	14.6%
営業利益	7,124	6.3%	9,235	7.2%	9,300	7.0%
経常利益	7,914	7.1%	9,725	7.6%	9,800	7.4%
当期純利益 ※	5,597	5.0%	7,168	5.6%	8,000	6.0%
ROE		10.0%		11.6%		11.0%

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益

【見通し】 関係会社を含め、豊富な繰越高を有し、大型産業案件や首都圏の再開発案件も多く、将来性や工事量に見合った施工体制の構築を考慮し、受注高は減少を見込む。
また、人的資本への投資や物価上昇による資材の高騰などにより、一部の利益率の低下を見込むが、業務効率化や原価低減を行い、前期比増収・増益を計画。

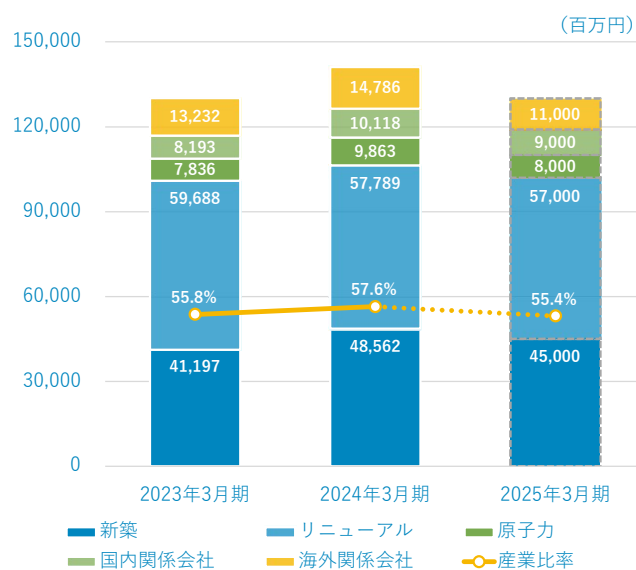


当社グループの通期業績見通しは、豊富な繰越高を有しており、大型産業案件や、首都圏の再開発案件も多く、工事量に見合った施工体制の構築を考慮し、受注高は減少を見込んでいます。また、人的資本への投資や物価上昇による資機材の高騰などにより、一部の利益率においては、低下を見込みますが、更なる業務効率改善や原価低減を行い、増収・増益を計画しています。

受注高：1,300億円、完工高：1,330億円、完工総利益は：194億円、営業利益：93億円、経常利益：98億円、当期純利益は、80億円を見込んでいます。

2. 2025年3月期 連結業績見通し 【分野別 受注高・完工高】

			2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比	構成比
個別	国内一般	新 築	41,197	48,562	45,000	△7.3%	34.6%
		リニューアル	59,688	57,789	57,000	△1.4%	43.8%
	原子力		7,836	9,863	8,000	△18.9%	6.2%
個別受注高			108,723	116,216	110,000	△5.3%	84.6%
関係会社	国 内		8,193	10,118	9,000	△11.0%	6.9%
	海 外		13,232	14,786	11,000	△25.6%	8.5%
連結受注高			130,869	141,121	130,000	△7.9%	－
(内、産業)			72,973	81,213	72,000	△11.3%	－
			55.8%	57.6%	55.4%	△2.2pt	－



続きまして分野別/受注高の見通しについてご説明します。

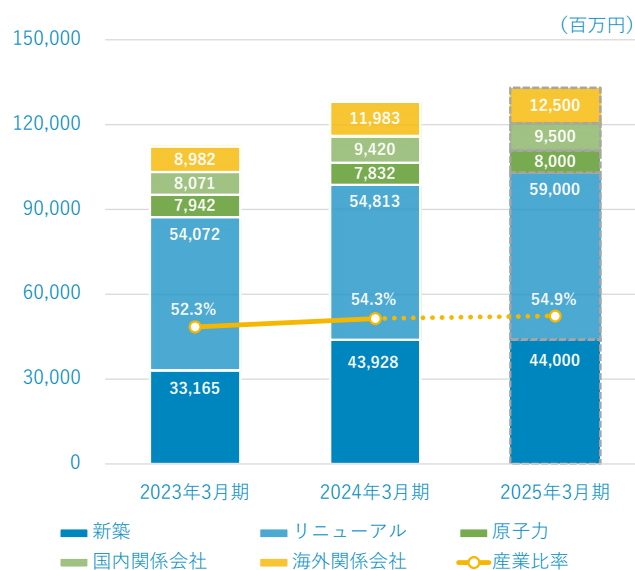
個別では、1,100億円を見込んでおり、内訳として、

新築分野は、450億円、リニューアル分野は、570億円、原子力分野は、80億円となります。

国内関係会社で90億円、海外関係会社で110億円を見込んでおり、連結で1,300億円となります。

2. 2025年3月期 連結業績見通し 【分野別 受注高・完工高】

			2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比	構成比
個別	国内一般	新 築	33,165	43,928	44,000	0.2%	33.1%
		リニューアル	54,072	54,813	59,000	7.6%	44.4%
	原子力		7,942	7,832	8,000	2.1%	6.0%
個別完工高			95,179	106,574	111,000	4.2%	83.5%
関係会社	国 内		8,071	9,420	9,500	0.8%	7.1%
	海 外		8,982	11,983	12,500	4.3%	9.4%
連結完工高			112,234	127,978	133,000	3.9%	－
(内、産業)			58,712	69,470	73,000	5.1%	－
			52.3%	54.3%	54.9%	0.6pt	－



続きまして分野別/完工高の見通しについてご説明します。

個別では、1,110億円を見込んでおり、内訳として、

新築分野は、440億円、リニューアル分野は、590億円、原子力分野は、80億円となります。

国内関係会社で95億円、海外関係会社で125億円を見込んでおり、連結で1,330億円となります。

1.	2024年3月期 連結決算実績	P. 3
2.	2025年3月期 連結業績見通し	P. 10
3.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正	P. 14
4.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況	P. 17



続きまして中期経営計画SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正についてご説明します。

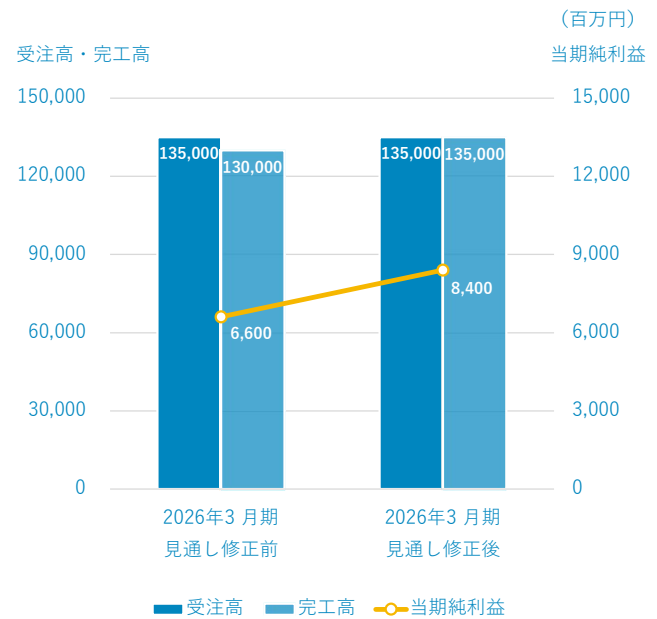
3. 中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正 【経営数値目標】

経営数値目標

	2026年3月期見通し 修正前		2026年3月期見通し 修正後	
受注高	135,000	—	135,000	—
完工高	130,000	—	135,000	—
営業利益	9,000	6.9%	9,500	7.0%
経常利益	9,400	7.2%	10,000	7.4%
当期純利益 ※	6,600	5.1%	8,400	6.2%
ROE	10.0%以上		10.0%以上	

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益

【見 通 し】設備投資における市場の動向や繰越高の増加、効率的なコスト管理を行い、我々のビジョンの実現と成長を加速するため、中期経営計画SNK Vision 2030 Phase II の最終年度である2026年3月期における経営数値目標を上方修正。



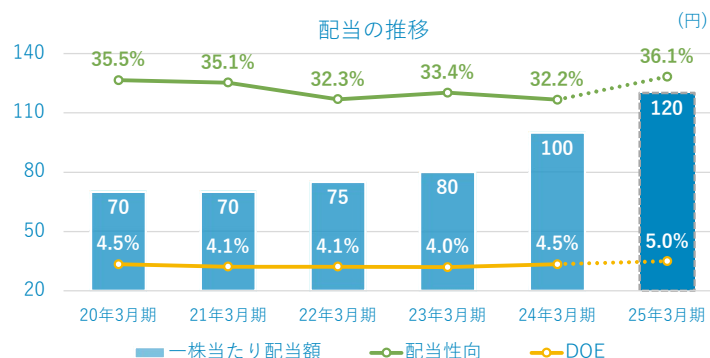
当社のビジョン実現と成長を加速するため、設備投資における市場の動向や繰越高の増加、施工体制などを総合的に勘案し、中期経営計画Phase II の最終年度である2026年3月期における経営数値目標を上方修正することといたしました。

2026年3月期での、受注高は、1,350億円を据え置き、完工高は、1,300億円から1,350億円に、当期純利益は、66億円から84億円にそれぞれ上方修正いたします。

3. 中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正 【株主還元】

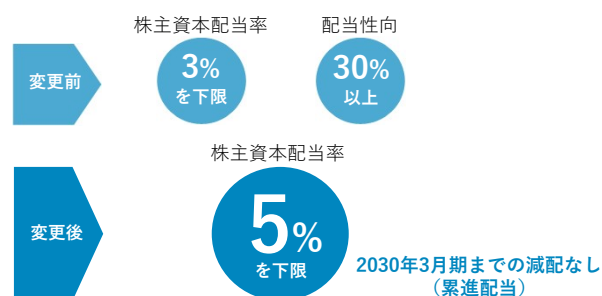
配当関連

		(円)			
		2023年 3月期	2024年 3月期 期首見通し	2024年 3月期 見通し修正後	2025年 3月期 見通し修正後
年間配当金	第2四半期	20	30	30	60
	期末	60	50	70	60
	合計	80	80	100	120
連結配当性向		33.4%	32.8%	32.2%	36.1%
DOE (株主資本配当率)		4.0%	3.7%	4.5%	5.0%



株主還元方針

当社グループは、株主の皆様に対する利益の還元を重要な経営課題の一つと位置付けており、安定的に株主の皆様へ還元するため、株主還元に関する基本方針は、DOE (株主資本配当率) 3%を下限とし、連結配当性向 30%以上として還元してまいりましたが、適正な資本効率を実現するため、2025年3月期より連結配当性向 30%以上を取りやめ、DOE (株主資本配当率) の下限を5%に変更しました。中期経営計画「SNK Vision 2030」期間中の成長目標をお約束するため、2030年3月期迄の減配を行わないこととします。さらなる還元については、今後の投資等を考慮しつつ、機動的に実施することとします。



続いて、2024年3月期の配当関連についてご説明します。当初、中間配当を30円、期末配当を50円として、期首見通しで年間配当を80円と予定しておりましたが、期末配当を70円とし、年間配当は100円となる見通しです。

連結配当性向は、32.2%株主資本配当率 DOE は、4.5%となる見込みです。

2025年3月期の株主還元については、適正な資本効率を実現するため、連結配当性向を30%以上、株主資本配当率 DOE の下限は3%としておりましたが、連結配当性向の30%以上を取りやめ、株主資本配当率 DOE の下限を5%に変更しました。

年間配当については、120円となる見通しです。

また、長期経営方針となる10年ビジョン「SNK Vision 2030」期間中の安定した株主還元をお約束するため、2030年3月期迄の減配を行わないこととします。さらなる還元については、今後の投資などを考慮しつつ、機動的に実施することとします。

1.	2024年3月期 連結決算実績	P. 3
2.	2025年3月期 連結業績予想	P. 9
3.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II と株主還元の修正	P. 13
4.	中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況	P. 17



続きまして、中期経営計画Phase II の進捗状況についてご説明します。

「社会の持続性への貢献」と「経営の持続性強化」のため基本課題に対するマテリアリティを特定

基本課題	マテリアリティ
地球環境への貢献に向けた積極的な取り組みの推進	・カーボンゼロ達成による地球温暖化防止 ・自然環境（水・大気・土壌の汚染）保護と自然共生社会の実現
技術革新の推進	・優れた施工品質と空気品質の提供 ・減災レジリエンス技術や新たな社会課題解決に向けた新技術開発 ・産学官、地域連携等による技術提供・共同開発の推進
現場力（安全品質確保、サプライチェーンとの関係、技術力）の強化	・労働災害の撲滅 ・サプライチェーンの強化 ・生産性の向上
従業員エンゲージメントの向上と人権の尊重	・健康経営、ワーク・ライフ・バランスの推進 ・次世代を担う人材育成 ・ダイバーシティとインクルージョン ・人権の尊重 ・ステークホルダーとの対話促進
企業倫理の徹底	・コンプライアンスの維持 ・リスクマネジメントの最適化 ・情報セキュリティの強化 ・公正な事業慣行

Phase II では、社会の持続性への貢献と、経営の持続性強化のため、マテリアリティを特定し、活動を行っています。

- ・カーボンゼロ達成による地球温暖化防止
- ・自然環境（水・大気・土壌の汚染）保護と自然共生社会の実現

気候変動分野への透明性とパフォーマンスにおける
リーダーシップが認められる

気候変動分野の情報開示において、CDPのAスコアを獲得

- ・当社グループは、持続可能な地球環境実現のために、環境問題を経営の重要事項と位置づけ、脱炭素化社会の実現に向け、温室効果ガス排出量の削減目標を掲げ、達成に向けた取組みを行っており、今後も気候変動に対処するための具体的な対策を講じて、更なる温室効果ガスの削減を推進する。



- ・カーボンゼロ達成による地球温暖化防止
- ・自然環境（水・大気・土壌の汚染）保護と自然共生社会の実現

次世代に向けたレジリエンス社会構築に向けた取組み
感染症対策に向けた取組み

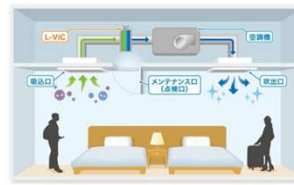
「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化対象）2023」 優秀賞をダブル受賞

・全天候型促成栽培システム

- リサイクルポリエステル繊維培地
- 二酸化炭素をピンポイントで施肥する技術
- 遠隔制御技術



・空気清浄装置「L-VIC®」 オゾン清浄装置「Ex-VIC®」の開発



空気清浄装置「L-VIC®」



オゾン清浄装置「Ex-VIC®」

当社グループは、持続可能な地球環境実現のために、環境問題を経営の重要事項と位置付け、脱炭素化社会の実現に向けた取組を行っており、その活動が評価され、CDPのAスコアを獲得しました。

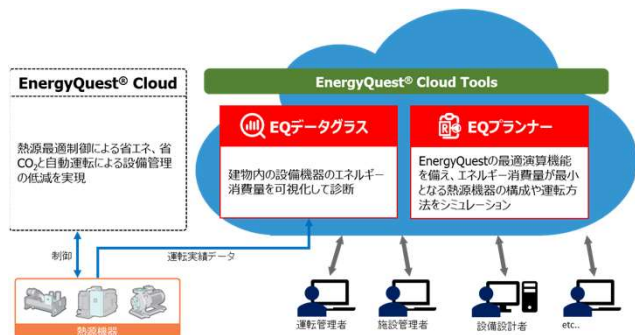
スライド右側です。次世代に向けたレジリエンス社会の構築を目指し、全天候型促成栽培システムの提供や空気清浄装置・オゾン清浄装置の開発による感染症対策に取り組み、「ジャパン・レジリエンス・アワード 2023」の優秀賞をダブル受賞いたしました。

- ・カーボンゼロ達成による地球温暖化防止
- ・優れた施工品質と空気品質の提供

大幅なCO₂排出量の削減を図り、
且つ施設管理業務の軽減を目指した取組み

EnergyQuest®Cloud Toolsの提供開始

- ・当社の保有技術である「EnergyQuest Cloud」と連携するソフトウェアを開発し、誰もがエネルギー消費量を診断できるツールであり、シミュレーションツールと合わせることで、CO₂排出量の削減のみでなく、お客様の業務効率化を目指し、省エネを加速させていく



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.

- ・減災レジリエンス技術や新たな社会課題解決に向けた新技術開発
- ・産学官、地域連携等による技術提供・共同開発の推進

千葉大学災害治療学研究所との共同研究

- ・放射線災害治療学研究をテーマとした放射線災害に対応する安全な医療体制と空調設備の研究
- ・「災害治療学シンポジウムin2023」で原子力発電所における空調設備の役割、技術開発について展開
- ・当社の保有技術「DiverCell®」の活用やコンテナ医療ユニットの改良検討
- ・大規模地震における対応経験を活かした、今後の研究方針



CoMU 災害医療センター
コンテナ医療ユニット (CoMU:Container Medical Unit)

20

次に、成長分野への事業領域の拡大に向け、当社独自の保有技術である、熱源最適制御システムを進化させ、EnergyQuest Cloud（エナジークエストクラウド）を市場投入しました。CO₂排出量の削減ならびに、お客様の業務効率化を目指し、省エネ化を図ってまいります。

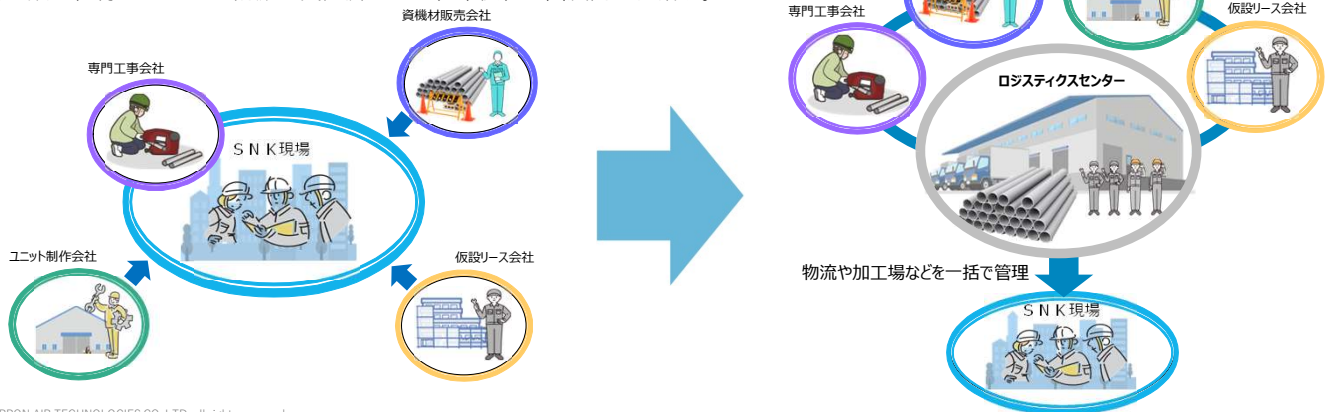
スライド右側です。技術革新の取り組みでは、放射線災害治療において千葉大学 災害治療学研究所との共同研究を開始し、放射線災害に対する安全な医療体制と、空調設備の研究を行っています。これまでの大規模地震における対応経験を活かし、技術開発を行ってまいります。

・サプライチェーンの強化 ・生産性の向上 ・健康経営、ワーク・ライフ・バランスの推進

物流・加工ネットワークシステムの運用開始

・物流管理や場外加工場などの一括管理

- 現場での加工・組み立てをロジスティクスセンターに集約して現場へ搬入し、加工することで、現場の状況に応じて柔軟な対応が可能となり、直接的に施工と関係のない労務作業も削減。
- 現場工数は、約10～30%の削減を実証済みであり、今後、全国展開を目指す。



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.

21

続きまして、サプライチェーンの強化、生産性の向上として、従来、現場ごとに行っていた加工、組み立て、資機材などの管理を、ロジスティクスセンターに集約し、一括で管理するシステムを、本格稼働しました。搬入時間の短縮や、ユニット化による工数の削減を図ることが可能となりました。今後は、本システムの全国展開を目指します。

- ・次世代を担う人材育成
- ・ダイバーシティとインクルージョン

メタバースを活用した採用活動

- ・メタバースプラットフォーム「METAGO」
(クロスコ(株)提供)を利用した独自のメタバース空間を提供
- DXをはじめとする多様な人材に興味を持ってもらうことと容易に会社見学が出来ることで当社への理解度を深めてもらい、ミスマッチの軽減を図る
- 今後は、更にコンテンツの充実化を図り、新たな角度で求職者への採用支援を行う



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD. all rights reserved.

- ・健康経営、ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・次世代を担う人材育成

エンゲージメントの可視化

- ・意識改革、組織改善に向けエンゲージメントの測定を開始し、改善に向けた取組を実施
- 働きやすさ、やりがい、会社が描くビジョンや企業理念の共感が従業員のエンゲージメントを高め、業績の向上や離職率の低下、人材の確保を目指していく

基幹システムの全面刷新による業務の効率化

- ・「デジタル変革戦略」の一環として基幹システムを全面刷新
- 原価管理などの様々な業務処理で効率化や完全ペーパーレス化を実現、今後は、デジタル化されたプロセスを連携させるデジタルインテグレーション (DI) に移行し、更なるデジタル変革を加速していく



22

次世代を担う人材の確保として、当社への興味や理解を深めてもらうことを目的にメタバースを活用した採用活動を開始しました。今後、メタバース内での会社説明会や座談会など、コンテンツの強化に取り組んでまいります。従業員の意識改革や組織改善に向け、従業員を対象に、エンゲージメントの測定を行い、改善に向けた取組を実施しております。

デジタル変革戦略の一環として、基幹システムを全面刷新し、業務の効率化や完全ペーパーレス化を実現し、今後は、デジタル化されたプロセスを連携させ、更なるデジタル変革を、加速させてまいります。

4. 中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況 【投資計画】

投資分野	《2024年3月期での主な実施内容》	2024年3月期 実績	《2026年3月期まで計画内容》
R&D、 成長事業、 環境 その他	研究開発 ・保有技術の開発 成長事業 ・海外現地法人の設立 ・ロジスティクスセンターの開設 環境 ・グリーンボンドやソーシャルボンドへの投資 その他 ・働きやすい空間創り	約15億円	研究開発 ・研究開発の拡充 成長事業 ・スタートアップ企業との連携 ・ロジスティクスセンターの全国展開 ・M&Aの活用 環境 ・E S G 投資 など
人的資本	・賃上げや人材の増員 ・従業員エンゲージメントを高める研修の導入 ・従業員持株会向け譲渡制限付 株式インセンティブ制度の導入	約10億円	・ブランディングの強化 ・人材の獲得（新卒・キャリア）と育成 ・エンゲージメントの向上 ・リスクリングの強化 など
デジタル変革	・基幹システムの刷新やデジタルツールの開発 ・生成 A I の導入	約20億円	・現場デジタル化の推進 ・生成 A I の活用 ・デジタルインテグレーションの推進 など

3年間で150～200億円を投資

投資計画では、将来の成長に向けて、「R & D、成長事業、環境その他」への投資、「人的資本」への投資、「デジタル変革」への投資において、3年間合計で、150億円から200億円を予定しています。

2023年度での実施内容としては、保有技術の開発や、海外現地法人の設立、ロジスティクスセンターの開設、グリーンボンドやソーシャルボンドへのESG投資を行い、働きやすいオフィス空間の整備、賃上げや人材の増員と育成、基幹システムの刷新、デジタルツールの開発、生成 A I の導入などを行い、2024年3月期では、45億円の投資を行いました。今後も、記載の計画内容に沿って進めてまいります。

3. 中期経営計画 SNK Vision 2030 Phase II の進捗状況 【政策保有株式】

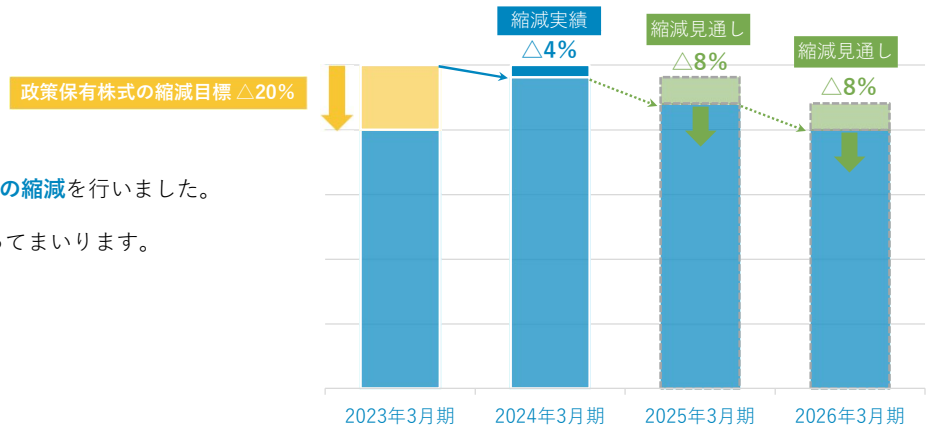
政策保有株式

政策保有株式に関する方針

- 当社は良好な取引関係の維持・連携強化を図るうえにおいて、企業価値の向上を実現する観点から、必要と判断する企業の株式を保有することがあります。株式の保有については、個別銘柄ごとに保有意義を総合的に勘案したうえで、保有または売却の要否を判断しておりますが、当初目標に掲げた**2025年度末までに2022年度末比で20%の縮減を目指してまいります。**

政策保有株式の縮減実績と見通し

- 政策保有株式については、**2023年度は約4%の縮減**を行いました。
- 今後、16%以上の縮減**を目指し計画的に行ってまいります。



政策保有株式の縮減については、個別銘柄ごとに保有意義を総合的に勘案したうえで、保有または売却の要否を判断しております。政策保有株式に関する方針のとおり、2025年度末までに、2022年度末比で20%の縮減を目指してまいります。2023年度は、約4%の縮減を行いました。今後、16%以上の縮減を目指し、計画的に行ってまいります。

免責事項

本資料にて開示されているデータや将来の業績に関する見通しは、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づくものであり、これらは様々なリスクや不確実な要因の影響を受けます。従いまして、実際の業績は、これらの見通しとは大きく異なる可能性があります。

各種データ・資料については細心の注意を払っておりますが、記載された情報の誤りや第三者によるデータの改ざん等本資料に関連して生じる障害・損害について、その理由の如何に関わらず当社は一切責任を負うものではありません。

お問い合わせ先

新日本空調株式会社 経営企画室 企画・サステナビリティ推進部

TEL : 03-3639-2701 FAX : 03-3639-2731 メールアドレス : IR_SNK@snk.co.jp

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号 浜町センタービル

以上で、2024年3月期決算に関する説明を終わります。

本日は当社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございました。

ご説明において至らない点もあったかと思いますが、ご清聴ありがとうございました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

SUSTAINA-FULL!

エンジニアリングで、人と自然に満ちたりた調和を。



私たちが暮らす社会の永続には、
自然界とのベストバランスの
維持が欠かせません。
果てなきサステナブルへ。
SNKはエンジニアリングパワーで、
人と自然、社会と地球の
あるべき調和を追求します。

Fill your tomorrow

snk
新日本空調株式会社